

桃の節句も過ぎ、明るい彩りのある景色が、春の暖かな風に徐々に運ばれてきています。明るい女性が活躍する建設業界を伝えるため、越美山系砂防事務所から女性活躍推進フォーラムにパネリストとして参加させて頂きました。

建設業界で輝く女性を伝える

日本建設業連合会の主催で2月17日、名古屋市のメルパルク名古屋で「女性活躍推進フォーラム」が開かれました。基調講演とパネルディスカッションが行われ、当事務所から堀技官が、建設会社勤務の女性技術者など数名の方と共にパネリストとして参加しました。

堀技官は、唯一結婚と出産を経験したパネリストとして「機械化や技術力の進歩で、現場での男女差はほぼ無いが、出来ない事は男性にお願いし、笑顔で感謝すれば雰囲気も変わる。両立は育休や時短の制度をうまく利用し、周囲の人に協力してもらえらる関係作りが大切。」と提起しました。



「女性が明るい業界の姿を学生に見て欲しい」と述べた堀技官

砂防堰堤の機能が向上 = 揖斐流木 =

揖斐川流木対策工事では、揖斐川町坂内坂本(さかうちさかもと)地先の寒谷(さむたに)第1砂防堰堤に、新たに流木対策施設を設置し堰堤機能を向上させる工事並びに、坂内広瀬(さかうちひろせ)地先の坂内砂防堰堤に堆積した土砂を除去する工事が完了しました。



坂内砂防堰堤の堆積土砂撤去



寒谷第1砂防堰堤

現場技術者の声

当現場は堰堤補強をする寒谷工区、土捨場を整備する白谷工区、河川内の堆積土を撤去する坂内川工区の3工区を施工する工事です。

施工箇所である坂内地区は、例年通りであれば12月初旬には積雪により施工が困難になる為、工期内の施工というよりは積雪前の完成を目標に施工しました。

結果的に12月上旬までの施工になりましたが、大きな積雪もなく無事工事を完成する事が出来ました。当現場に携わった全ての方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。



(株)ヤマモト
監理技術者
清水 慶生さん

「里山探検隊」28年度も実施します

揖斐川上流域の山間部で生活する人々の暮らしや文化に触れ、その交流を通じて山と水の関わり・水源地保全・防災の大切さを学習する「里山探検隊」を、28年度も引き続き実施します。募集要項や27年度までの実施状況など、詳しくは[事務所HP](#)に掲載。



27年度開催の様子(根尾白谷)

急峻な斜面での施工 = 高地谷 =

揖斐川町小津(おづ)地先で工事を進めてきた高地谷(たかちだに)第1砂防堰堤道路工事が完成し、砂防堰堤建設のための約1km区間の林道付替が完了しました。

次年度は高地谷第1砂防堰堤(H=27.0m)の本体工事に着手し早期完成を目指します。



林道の付替が完了

現場技術者の声



西濃建設(株)
現場代理人
高木 良祐さん

本工事は、新設する砂防堰堤の為に道路付替工事です。今年度は取付け道路開通ということで、掘削・法面・補強土壁・取付け道路・残土運搬・舗装工1km・防護柵1kmなど、多くの工種があり、施工範囲も広く、体力的にも大変な現場でした。

また、本現場は毎年雪に困らされている現場であり、雪の降るまで勝負です。そのため、隣接工事の責任者の方とも密に連絡調整を行い、色々な方の力を借り、無事完成する事が出来ました。長期に渡って施工してきましたが、地元住民様を始め、工事関係者様に恵まれた現場であった事に感謝したいと思います。

※法人については文中敬称略



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。

発行 国土交通省中部地方整備局
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626
E-mail: cbr-ibigawasabo@mlit.go.jp

コラム：女性と若手の現状2015

文：越美山系砂防事務所長 伊藤 誠記

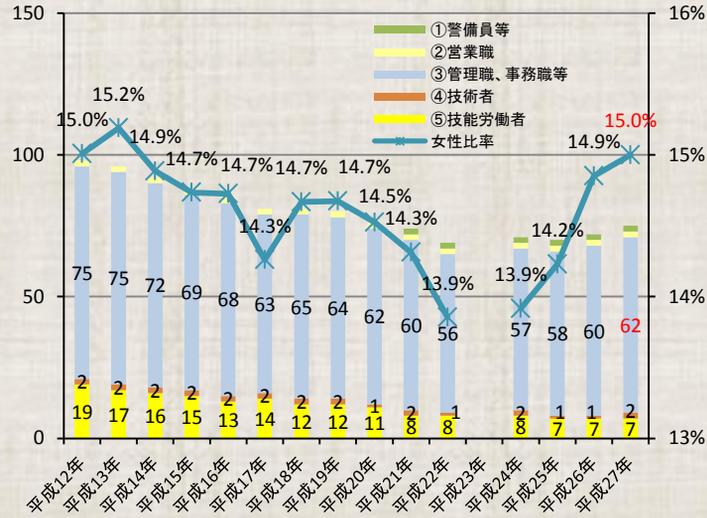
先日、平成27年の建設業の労働力に関する統計情報が公表されました。今回、当方が考える注目ポイントは二つです。

1. 女性の割合が増加するも・・・

まず、建設業全体における女性の労働者数は、15%でした（図-1）。女性の総数自体は変わりませんでしたが、建設業就業人口全体が縮小したため、割合としては増加しています。15%という数字は、建設業労働人口がピークに近かった平成10年ごろの数字に近く、一時建設業から遠ざかっていた女性労働者が、建設業に戻り、定着しているとも考えられます。

一方で問題もあります。女性労働者の中身を見てみると、増加したのはほとんど「管理職・事務職」であることがわかります。一方で、技術者・技能労働者はほとんど増えていません。ここ数年の、官民挙げての女性活用の取組みが、主にデスクワークの職種には効果を上げているものの、女性技術者・技能労働者の拡大までは及んでいないと言えます。

図-1 建設業に従事する女性労働者数(万人)



※平成23年は、東日本大震災の影響で欠測
 ※技能労働者とは、生産工程従事者、輸送・機械運転従事者、建設・採掘従事者を合計したものとしました。

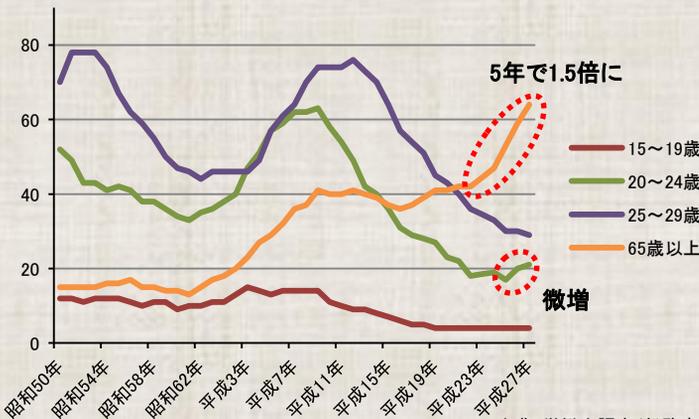
出典：労働力調査（総務省）

2. 65歳以上より若手が少ない業界

ここ数年、65歳以上の労働者の増加はすさまじいものがあります。平成27年までのわずか5年間で、なんと1.5倍にも増加しています（図-2）。この原因として、いわゆる団塊の世代が65歳以上となったこと、新規雇用をする体力のない企業が、定年に差し掛かる従業員の雇用を延長して対応していることなどが考えられます。この結果として、建設業労働人口に占める65歳以上の割合は12.8%、30歳未満の割合は10.8%と、2年前に逆転した割合が定着・拡大しつつあります（図-3）。

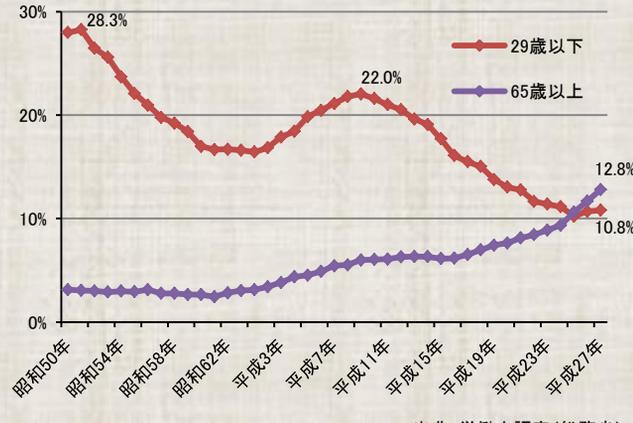
明るい兆しもないではありません。25歳未満の、高校・大学を出て社会人になったばかりの年齢層は2年前の21万人から今年25万人と、若干ではありますが、増加しました。若手入職の取り組みの成果とも言えますが、そのボリュームはかなり弱々しいものです。この点からも、省力化や労働生産性向上の進展、また若手入職のための取組みの一層の拡大は待ったなしだと思われます。私も、国土交通省の職員として、改めてこれらの点に取り組んでいきたいと思います。

図-2 建設業の年齢階級別労働人口



出典：労働力調査（総務省）

図-3 建設業従事者の年齢別割合



出典：労働力調査（総務省）